

【足立敏之議員】川辺川ダム建設予定地視察／「ダムが完成していたら」

自由民主党の足立敏之参議院議員は24日、「令和2年7月豪雨」で被災した熊本県南部の現地調査を行った。災害発生後、熊本県を視察するのは4回目。今回は政権交代に伴い事業が中止されている川辺川ダムの建設予定地を訪れ、1999年に完成した仮排水路トンネルの坑口や本体工事用の骨材製造設備、貯蔵設備などの基礎を確認した。足立議員は「まさに本体工事着手直前にストップしたことがありありと分かり、改めてこのダムが完成していたらと残念な思い」と語った。



川辺川ダムの建設予定地

川辺川ダムを巡っては、流域の12市町村が県と国に対して川辺川ダム建設を含めた洪水の検証を速やかに実施し「目標時期を定め川辺川ダム建設を含む抜本的な治水対策を講ずるべき」とする決議を20日に行ったところ。25日には九州地方整備局と熊本県が流域12市町村と連携して球磨川の豪雨を検証する委員会の初会合が開かれるなど、今後の治水対策検討の行方が注目される。



西瀬橋の仮復旧現場を視察する足立議員（右）

足立議員は今回、未曾有の被害が発生した人吉市内の球磨川で落橋した西瀬橋の仮復旧現場も訪問。小学校への登校ルートとなっている同橋に応急架橋を大型クレーンで緊急に設置するなど、迅速な施工が進んでいる状況を視察し「そのスピード感到に驚いた」と話す。

また球磨川沿いで被災している国道219号、県道中津道八代線について九州地整が権限代行で延長約100kmにわたり復旧を行っている現場や、通行可能となった球磨村、芦北町、八代市坂本地区の被災地および落橋箇所なども見て回った。途中、肥薩線の

線路敷きを仮付け替え道路に活用している現場を見た足立議員は「直轄でしかできないことだろう」と強く感じたという。